

農業委員会だより

土岐市の農業

題字 土岐市長 加藤 淳司



発行/編集 土岐市農業委員会

農業委員の顔

令和二年八月からの新任期の農業委員会委員、農地最適化推進委員の横顔を紹介いたします。

今年の百姓

土岐市農業委員会会長
渡邊 和男 (肥田町)



脱サラして十五年、先祖からの土地を守るため米作りをしているが、今年状況はいつもと違った。春先の苗づくりと移植作業を依頼していたAさんも高齢に伴い規模を縮小した。五月連休には田植えが始まると予想し、昨年より十日ほど早く代掻きを始め、予定移植日の四日前にあわせ代掻きを終えた(除草剤散布時期は代掻き終了から十日以内が良い)。

田植えは肥料散布と同時進行なので空模様も気がかりであったが、五月十日に無事終了した。あとは秋まで水の管理だけだと楽観していた。ところが七月に入ると雨、雨、また雨。出穂前の日照不足を心配していたら、八月に入ると今度は暑い、暑い！出穂期の水は確保したいと気苦労は多かった。

◆ 農業委員会活動日誌 ◆

令和2年

- 5/26 農地転用現地調査
- 5/29 第5回農業委員会総会
- 6/30 農地転用現地調査
- 7/3 第6回農業委員会総会
- 7/28 農地転用現地調査
- 7/31 第7回農業委員会総会
- 8/3 第8回農業委員会臨時総会
- 8/25 農地転用現地調査
- 8/28 第9回農業委員会総会
- 9/29 農地転用現地調査
- 10/2 第10回農業委員会総会
- 10/27 農地転用現地調査
- 10/30 第11回農業委員会総会
- 11/24 農地転用現地調査(予定)
- 11/27 12回農業委員会総会(予定)

八月末ごろ、乾燥機に入っている籾米の処理をしようとしたところ、今度は乾燥機が動かない。結果、調整基盤の故障と判明し、保管していた籾の排出に四苦八苦。九月に入り台風が来ると、周囲の田んぼは刈取りが済んでしまったから焦った。

昨年までは十月に入ってから収穫作業を行っていたが、台風の前には刈取りたい。収穫にはコンバインを使用するから、稲床が乾いていないといけないが、今年は無理を承知で湿田のまま決行したら、案の定、泥濘に嵌ってしまった。何とか自力で脱出できたものの、刈取り終了後のコンバインの清掃は、泥とりで腰が悲鳴をあげていた。

九月の連休ごろには、地域の稲刈りはすべて終わって、出来栄が話しが色々聞かれた。「収穫量は昨年より二割ほど少ない」、「カメムシ被害が酷い」等、全体的に減収である。それでも我が家には、籾保管のため昨年米がある。新米はいつになったら食べられるのやら。



石原 茂
(土岐津町)

農委委員二期目を務めさせていただくことになりました、土岐津町の石原茂です。よろしくお願い致します。

土岐市の農地は、年々減少傾向が見受けられます。担い手不足、高齢化が原因のようです。

遊休農地や耕作放棄地の増加を防ぐ方法は、難題だと思えます。

全国の農地情報がインター

ネットでみられます

【全国農地ナビ】

<https://www.ais-ac.jp/>

●ご存知ですか？農地の売買や転用には、許可が必要です。

農地を耕作するために貸借・売買する場合は「利用権設定」「農地法3条の許可」、農地を宅地等に転用したり、転用するために所有権移転等する場合は、「農地法4条または5条の許可」が必要です。



田中 成典
〈泉町〉

農業委員に今回も任命され、三期目となります。大きなミスもなく二期六年を務めることができたのは、先輩委員や同僚委員の協力のおかげと感謝しております。

今年も農地利用状況調査を九月から始めました。担当の泉地区の調査でも、毎年、宅地化され農地が減ってきており、寂しい限りです。また、荒地や耕作放棄地が増えてきており、草刈もされずに近隣住民に迷惑をかけているの

を見ると、土地の所有者には配慮をお願いしたいなと思います。同様に、お楽しみ農園においても同じ問題が起きているので、管理をお願いします。これから任命された三年間、また、一生懸命頑張りたいと思います。



和田 孝美
〈泉町〉

本年八月に、農業委員に任命された和田と申します。

早速、九月から泉地区の農地利用状況調査を実施し、田畑の調査をして、状況に応じて地図に色分けを行いました。

その中で改めて感じたことは、自分が小、中学生のころから知っていた田畑が、今は高齢化や、若者の農業離れのため、耕作されずに遊休農地となってしまう場所が多くあり、中には農地の形跡がまったく無くなって山林化してしまったような耕作地もあって、農業の厳しさを再認識したところです。

今後、農地転用等で他の地域の農業事情等を勉強し、土岐市の農業の発展に取り組み、貢献して行けたらと思います。今後、皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



林 汐夫
〈妻木町〉

三期目の農業委員を迎えました。私の二期目には、担当地区において、沢山の太陽光発電の新設がありました。今後も設置が続くと思います。この三期目が終わるころには、土地区画整理事業が完了する予定です。多

くは畑地となりますが、耕作放棄地が増えること、また、宅地としての使用が問題になると思います。何か良い対策があれば、ご提案いただけますようお願いいたします。

重ねて、今後とも、皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



山田 義成
〈妻木町〉

この八月に、農業委員に任命された妻木町の山田義成です。

地球温暖化のためと思われる異常気象により、各地で災害が発生しています。農業もその影響で、作物の生育や収穫量が、年ごとに変動しています。それが米や野菜の値段に跳ね返り、農業従事者の生活が安定しませんが、その不安定さが、若者の農業離れの原因のひとつだと思います。

後継者がおらず、あちらこちらで、休耕地や農地への太陽光発電の設置が見られます。

行政のお手伝いをしながら、魅力ある農業、また、農作物を作る楽しさを発信して、農業後継者が増加するよう、努力して行きたいと思っています。



佐分利 武夫
〈鶴里町〉

本年八月に農業委員に任命されました佐分利です。初めての委員ですが、これからの任期三年間を精一杯務めさせていただきたいと思っております。

鶴里地区も農業従事者の高齢化、若者の農業離れ等、いろいろな問題が山積しています。そんな現状の中で、わからない事ばかりですが、地域の農業の発展に少しでも貢献できるように尽くして行く所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



長江 克典
〈鶴里町〉

この八月から、農業委員に任命されました長江です。任命されたものの、初めての事で、何も解りませんが、皆さんにご指導いただきながら頑張りますので、よろしくお願ひします。

高齢化が進む昨今、休耕地、耕作放棄地が増加してくると思います。担い手を確保することが重要だと思っております。



田中 恵子
〈鶴里町〉

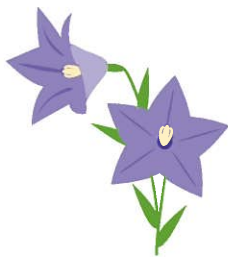
本年八月に農業委員に任命された田中恵子です。どうぞよろしくお願いたします。

父母が亡くなったあと、耕作放棄地にしないよう田畑を維持しています。が、それまでは表面上しか見ていなかったため、最初はいろいろとわからないうまま農業を始めました。

この十二年間、夫と二人三脚で頑張ってきました。水稲の苗づくりから稲刈り・乾燥まで、畑の種まきから収穫まで、忙しくしていて、あつと言う間に過ぎてしまいましたが、まだまだ勉強することばかりです。

安心、安全な旬の野菜を美味しく食べていただけるよう、柿野朝市（於JA濃南支店・鶴里店前）にも参加しています。

新任なので、農業委員の皆さまにいろいろとご迷惑を掛けはしないかと心配していますが、よろしくご指導のほどお願いいたします。



酒井 勇
〈駄知町〉

「農業委員を拝命して」

平成二十九年から駄知地区の農業委員に任命され、二期目を務めさせていただきましたことになりました。また三年間、よろしくお願いたします。

毎年、九月には市内農地の利用状況調査（農地パトロール）を実施しています。現在、

駄知地区には水田は一ヶ所しかありません。毎年、そこで駄知小学校五年生児童が、総合的な学習と社会科の授業で、米作りの体験学習をしています。今年、新型コロナウイルスの感染防止のため、中止になりました。感染が収まらないうと、子どもたちの農業体験や食農教育ができないので、心配しています。



安藤 喜久雄
〈下石町〉

四期目の農業委員に任命されました。

私ごとではありますが、これまで四十五年、農事改良組合員の役員と市の農林課の職員、農業指導員とで、年に

五・六回程度、地域の農地の状況確認をしたり、会議において農業のあり方を教えてもらったりと、いろいろ勉強になり、ありがとうございます。四期目も、皆さまのご支援、ご協力をいただきますよう、お願いいたします。



三輪 やよい
〈肥田町〉

この度、三期目の農業委員を務めさせていただきます。

高齢化による農業従事者の減少や若者の農業離れによる休耕田や耕作放棄地が増えています。また、草むらの中に太陽光発電施設があり、時代の流れを感じる次第です。

この耕作放棄地をどう活用して行くのか？農業を取り巻くいろいろな課題が山積しており、女性として何ができるかわかりませんが、例えば子どもの農業体験や食農教育に役立てればうれしいです。



梅村 徳幸
〈曾木町〉

農業委員に任命されてから、これで四期目を迎えました。振り返ってみれば、父親が亡くなってから初めて農業に本格的に取り組むようになり、や

っと稲作りや野菜作りに面白さや楽しみが増してきました。また、農事組合法人「曾良の里」を五人の仲間と立ち上げて、後継者の無い水田を借り受けて稲作をしています。私たちも平均年齢が七十歳と、高齢化の波に入っています。曾木地区に限らず、耕作放棄地が目立つようになり、田畑には太陽光パネルが建ち並び、人の手が入らなくなった耕作地は鳥獣類の巣となり、電気柵を張り巡らすものの農作物の被害は後を絶ちません。

それでも耕作地を放棄する事はできません。食の根元を手放すことになると思うからです。

今年、新型コロナウイルスに始まって、梅雨時は各地で大雨による農作物の被害が続出しましたが、そういった災害が、いつ我が身に降りかかって来るか分かりません。

鳥獣被害等に負けず少しでも耕作放棄地をなくす様に努力して行きたいと思っております。

「土岐市の農業」は、土岐市ホームページ内の下記アドレスから、
<http://www.city.toki.lg.jp/shisei/soshiki/kezaikankyo/nogyo/>でご覧いただけます。

農地利用最適化
推進委員の顔



土岐 直哉
(曾木町)

今回、二期目の農業委員を務めさせていただくことになりました。
私の住む曾木町は、自然が豊かで美しい里山です。荒れてゆく農地を少しでも無くして、この先も田畑が豊かに実る風景を残して行けるよう、努力して行かなければと思っています。



水野 博晴
担当：肥田町・泉町

この度、再度、推進委員に任命され、肥田地区と泉地区の担当となりました。

主な仕事は、農地中間管理事業の手助けで、休耕地を耕作地に変えていくことですが、営農が可能かどうか、将来にわたって農業ができるかどうかを考えなければいけません。今度の菅

内閣ではスマート農業の推進が決定されるそうです。まずは農業の担い手を確保し、IT活用のできる人材を登用することで、農業経営の安定を図ることが出来ればと思います。現在の休耕地は、太陽光発電の利用が主なものです。日本の食糧自給の確保に向けて、将来を見据えていきたいと思っています。



田中 伸久
担当：曾木町・妻木町

あつという間に広がった世界のグローバル化により、日本においての食料自給率の問題を議論している間に、店頭にはいろんな種類の食物が、季節に関係なく国内産・外国産も問わずに並ぶようになりました。

いつでも、欲しいときに食べたいものが手に入るのには本当にうれしい限りです。

委員としてもうれしい限りですが、自分の足元を見たとき、また、少し周りを見回したときに、これで良いのかどうか？疑問符が浮かびます。今後、少子高齢化がすすめば食料の需要は少なくなるでしょう。だからと言って農地の利用は今のままで良いのかなと思ってしまう。

少し話しは変わりますが、定年退職後に余裕のできた時間を使って、あちこちで農地を借りたりして耕作される方を見かけると「ああ、がんばってみえるんだなあ」と、微笑ましくなります。それでも耕作放棄地は幾分増えてきています。条件の悪い場所から手つかずになり、これも時代の流れと言ってしまうれば致し方ないのですが、この平和な時代が続く保証は無く、何かの拍子で流通が滞ると、安心・安全な食料の確保が難しくなります。耕作放棄地を少しでも無くして、自給率の向上を願うばかりです。



加藤 博康
担当：鶴里町

農地利用最適化推進委員になって

今年八月に農地利用最適化推進委員に委嘱され、細野を主に、鶴里町を担当することになった加藤博康です。

十五年前に稲作を止め、圃場を畑にして細々と野菜を作っています。その畑を猪に荒らされるので、七年前に狩猟免許を取得して箱罾で狩猟しています。

稲作をしていない私に、農地利用最適化推進委員の話が来るとは思ってもいませんでした。委員に委嘱されても自覚はあまりなかったですが、農地利用状況調査で

帽子を被り、腕章をつけ、身分証を首から下げて調査をしていると、いろいろな情報が入ってきて、今年で稲作は四軒止めるのも判り、少し自覚するようになってきました。

今年、鶴里町細野では鹿の被害が二面あって、一面は米が収穫できず、被害の原因が当初は判らず、東濃西部総合庁舎まで問い合わせに行き、やっと鹿の食害だと判りました。高齢化のため、耕作放棄地が増えるとともに、獣害のため離農する人もあります。被害予防捕獲の必要性を痛感しています。

私は、名古屋と刈谷の会社に勤めていましたが、当時、会社の人に、国道363号沿いは、昔の風景を見るようで、春や秋のドライブが楽しみだと言われましたが、今は耕作放棄地が増え、昔の面影が無くなり、通過しているだけと言われてしまいました。

耕作放棄地や管理地を減らし、獣害の予防を含めて、耕作の継続をどのようにしていくのか考える必要があると思っています。今この頃です。

